

いおうのし 伊王野氏ってなにもの？

1 古代～中世（鎌倉時代～安土桃山時代）

伊王野氏は那須頼資の子資長が伊王野の名字を名乗ったことに始まるとされており、伊王野専称寺にある阿弥陀如来立像（国指定重要文化財）及び勢至菩薩立像（県指定文化財）の背面に刻まれた銘文にも、資長の名があります。



伊王野山城跡



阿弥陀如来立像ほか

室町時代後半（戦国時代）の伊王野氏

は、那須氏や芦野氏・大関氏とともに

「那須衆」と称されました。伊王野氏は、那須氏に次いで最大で1万石を超える所領があったとされています。『継志集』という伊王野家に代々伝わる史料には、野上・愛吉・東小滝（大田原市）、棚橋・蒔戸・ほりのうち おいわけ やまなか おいだわら ななまがり ゆうがり つなご にがしむろ こじま くるだ 堀内・追分・山中・追田原・七曲・夕狩、綱子・逃室・小島・黒田・針生・松沼・峯岸（那須町）などの地名が所領であったと記されています。戦でも伊王野氏は活躍し、天文18年（1549）の五月女坂の戦いでは、伊王野家家臣鮎瀬弥五郎が宇都宮尚綱を討ち取る活躍を見せています。小田原合戦の際には、本領738石を安堵されています。

【伊王野氏関連史跡】

- ・伊王野山城跡…本丸・二の丸・三の丸・北の郭で構成された伊王野氏の居城。
- ・伊王野氏旧墳墓…専称寺にある伊王野氏の戦国時代までの墳墓。
- ・温泉神社の杉並木…伊王野氏が奉納したと伝わる杉。現在28本が残る。

2 近世（江戸時代）

関ヶ原の戦いと同時期白河の関山では、伊王野氏と上杉景勝勢が戦い、伊王野氏が勝利しました。（関山合戦）。この戦いの恩賞で伊王野氏は2000石の加増を受けています。しかし伊王野資晨の嫡男資重が、この合戦の傷がもとで亡くなると伊王野氏には悲劇が訪れます。資信、資朝（資重の弟）、資房が相次いで亡くなったことにより旗本伊王野氏は改易・断絶します。その後伊王野領は天領となりました。しかし、資重には嫡男資直がいたことから、伊王野氏の血筋は保たれました。資直の子である資忠は御三家の1つである水戸藩へ仕官し家老職を務めています。また資忠の弟資勝は大田原藩へ仕官し、資晨の弟資壽は鳥取藩へ仕官しました。資壽の子孫は明治維新時に活躍した伊王野坦です。

【伊王野氏関連遺跡】

- ・伊王野氏新墳墓…長源寺（伊王野氏菩提寺）にあり、五輪塔4基・自然石碑3基が存在。

伊王野氏略図

